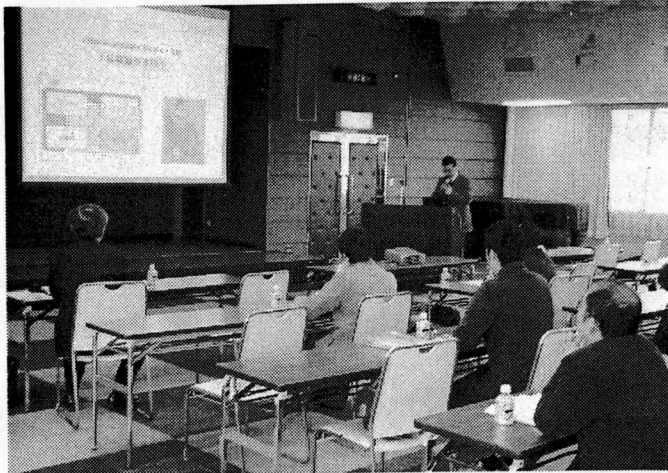


鶴岡高専地域共同テクノセンター 産業技術フォーラム

最新情報を吸収



ロボット技術などについて学んだフォーラム

障害者支援ロボットについて学ぶ

鶴岡高専地域共同テクノセンター(加藤康志郎センター長)の「産業技術フォーラム」が15日、酒田市の市勤労者福祉センターで開かれ、地元

企業関係者らが専門家の講話で、障害者を支援するロボット技術などについて学んだ。

地域共同テクノセンター

の前身の鶴岡高専地域

協力教育研究センターが

設立された1994年度

から毎年、鶴岡市と酒田

市で1回ずつ開催してい

る。最新の産業情報など

を提供し、産学官連携に

よる技術開発の振興など

を図るもの。通算23回目

の今回は、地元企業や

福祉関係者ら約30人が参

加した。

講話は、国立身体障害

者リハビリテーションセ

ンター研究所の中山剛研

究員の「障害者ニーズと福祉機器の研究開発」、

福島大学共生システム理

工学類の高橋隆行教授の

「人間支援機器開発とロ

ボット技術」の2題。

このうち高橋教授は、

人間の声を理解して飲み

物などを持つてくる介護

ロボット「IRIS(イ

リス)」をはじめ、障害者を支援するロボット技術について講話した。

足が不自由な人の廃用症候群(動かさないとますます機能が衰える症状)対策で研究開発に取り組んだ足こぎ車いすでは、電気刺激で筋肉を動かす

FES(機能的電気刺激)で足を動かしペダルをこぐ方法や、わずかな足の動きで人間の意思を

とらえ動力でペダルこぎを助ける方法など、機械と人間の「共生」の様子を紹介。「ロボットに感情までは求めなくても、人間の意思ぐらいいは分かっ

てほしい。人間の意思をどう伝えるかが重要」と語った。

鶴岡市では昨年9月、国際規格ISOや有機ELをテーマに講話が行わ

れている。